世界のワクチン需要が急減速、累計感染者５億人超に　１日あたり接種回数は１年ぶり低水準

2022/4/22 日本経済新聞

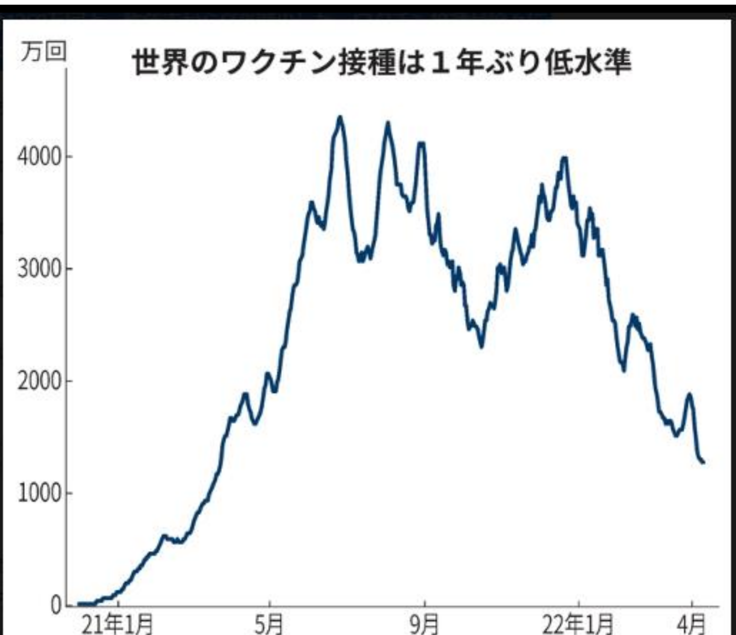
世界でワクチン接種は減速している=ロイター

【ニューヨーク=野村優子】新型コロナウイルスワクチンの需要が世界で急減速している。重症化しにくいオミクロン型の派生型「BA.2」が各国で主流となり、追加接種に対する意欲が低下。1 日あたりのワクチン接種回数は、1 年ぶりの低水準で推移している。世界の累計感染者数は 5 億人を超え、4 回目接種（2 回目の追加接種）の動きが広がるが、人々は複数回の接種に消極的になっている。

世界のワクチン接種は年初から急減している。英オックスフォード大の研究者らがつくる「アワー・ワールド・イン・データ」によると、11 日時点の 1 日あたりの接種回数（7 日移動平均）は 1260 万回と、昨年末から 65%減少した。ワクチン接種が徐々に増え始めた昨年 3 月下旬以来の低水準で推移している。

ワクチン売上高も想定を下回りそうだ。英医療調査会社エアフィニティは 4 月初旬、2022 年の世界のワクチン売上高見通し（中国除く）を 641 億ドル（約 8 兆円）と、従来予想の 808 億ドルから 2 割引き下げた。販売数の見通しも 60 億回と従来予想（90 億回）から下方修正し、23 年以降は年 20～40 億回を見込む。3～4 回目の接種（1～2 回目の追加接種）に対する需要が低迷していることを反映した。

オミクロン型やその派生型が主流となり、追加接種に対する意欲が低下している。エアフィニティの分析ディレクター、マット・リンリー氏は「オミクロン型は重症化しにくく、人々は繰り返しワクチンを接種することに消極的になっている。イスラエルやチリでは 3～4 回目の接種率が低下しており、こうした流れは他国にも広がる」と指摘した。ワクチン接種が先行する両国では、3 回目の接種率が 25%、4 回目は 50%減少したという。



(注) １日あたり接種回数、７日移動平均
(出所) アワー・ワールド・イン・データ

米国では 3 月末、50 歳以上や免疫不全の人を対象に 4 回目接種が承認された。ただ米医療メディア「STAT」が実施した世論調査によると、接種意欲は高くないようだ。米国人の成人を対象に 4 回目接種を受けるかどうか聞いたところ、18%が「接種しない」と回答。また、25%

近くは「新たな変異型が出現または、感染が急拡大した場合のみ接種する」と回答した。
4 回目接種の効果が長く続かないとの見方も、接種意欲の低下につながる。イスラエルでの 60 歳以上への 4 回目接種の感染予防効果は、4 回目接種から 3～4 週間後には 3 回目接種と比べて 50%程度低く、7～8 週後にはほぼなくなった。米食品医薬品局（FDA）が開いた諮問委員会では、既存ワクチンが BA.2 を含むオミクロン型に十分適合していないとの指摘も出た。
需要が減速するなか、新型コロナワクチンの生産ペースは落ちつつある。英アストラゼネカ製ワクチンは、一部の生産委託先などで生産が縮小または停止された。米ジョンソン・エンド・ジョンソン（J&J）は昨年 12 月から一部工場で生産停止し、より収益性の高いワクチンを生産している可能性について報じられた。日本政府はアストラゼネカ製について、4000 万回分の購入を取り消している。
米ジョンズ・ホプキンス大の集計によると、世界の新型コロナ感染者数は 13 日までに累計 5 億人を超えた。感染力の強い「BA.2」や新たなオミクロン型の派生型「XE」の出現に対する警戒感は強い。ただ、全体の新規感染者数や死者数は減少傾向が続いており、欧米を中心にマスク着用義務などの規制を撤廃する動きが広がっている。